

博多湾における環境DNAを用いた魚類モニタリング

環境科学課 有本圭佑・三戸谷勇樹・大平良一

第59回日本水環境学会年会

環境DNAメタバーコーディング法による調査を博多湾のアマモ場、常時監視地点で実施した。能古島及び志賀島のアマモ場を含む周辺海域の魚類相を明らかにするため、有効な調査手法の検討を行った。

採水方法を比較したところ反復採水はブーリング採水に比べ検出種数が多く、魚類相を明らかにするのに有効であると考えられた。

また、常時監視地点において令和6年6月、8月、11月に調査を実施したところ種数は8月が最も多く、アマモ場周辺で検出される魚種と比較すると一部異なる傾向がみられた。